

別紙

三菱ケミカル株式会社 大竹事業所
テクノUMG(株)大竹工場

温室効果ガス削減実施状況報告書

1 事業の概要

(1) 事業所の名称

三菱ケミカル株式会社 大竹事業所
テクノUMG株式会社 大竹工場

(2) 事業所の所在地

広島県大竹市御幸町20番1号

(3) 業種

三菱ケミカル株式会社 大竹事業所	…1632	脂肪族系中間物製造業
テクノUMG株式会社 大竹工場	…1735	プラスチック製造業

2 計画の期間

本計画の期間は、平成27(2015)年度を基準年度とし、平成28(2016)年度から平成32(2020)年度までの5年間とする。なお、非エネルギー起源の温室効果ガスについては、平成19(2007)年度を基準年度とする。

3 温室効果ガスの総排出量に関する数量的な目標の達成状況

《排出量を削減目標とする場合》

単位：排出量 (t-CO₂)，削減率 (%)

温室効果ガスの種類	基準年度実排出量(a)	目標年度 上段：見込量(b) 下段：削減率(c)	計画期間の実績 (上段：実排出量(d)，下段：削減量の対基準年度比(e))				
	平成19年度	平成32年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
エネルギー 起源CO ₂							
非エネルギー 起源CO ₂	50,981	49,961 2	38,913 24	39,205 23			
メタン	147	144 2	137 7	142 3			
一酸化二窒素	3,608	3,536 2	3,436 5	3,277 9			
フロン類							
温室効果ガス 実排出量総計							
温室効果ガス みなし排出量							
実績に対する 自己評価							

※ 削減率(c) = ((b) - (a)) / (a) × 100 削減量の対基準年度比(e) = ((a) - (d)) / (a) × 100

《原単位を削減目標とする場合》

原単位算定に用いた指標：**基準製品換算生産数量(t)**

温室効果ガスの種類	基準年度の実績(a)	目標年度 上段：目標(b) 下段：削減率(c)	計画期間の実績 (上段：原単位実績(d)，下段：削減量の対基準年度比(e))				
	平成27年度	平成32年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
エネルギー 起源CO ₂	612	582 +4.9	539 +11.9	497 +17.8			
非エネルギー 起源CO ₂							
メタン							
一酸化二窒素							
フロン類							
温室効果ガス 総排出量							
エネルギー消費 原単位(原油換 算kl)	189.7		165.4 +12.8	148.5 +21.7			
実績に対する 自己評価	平成29年度の原単位が対前年度比で減少した理由：生産量が増加したため 平成27～32年度：テクノUMG(株)大竹工場は算定対象外						

※ 削減率(c) = ((b) - (a)) / (a) × 100 削減量の対基準年度比(e) = ((a) - (d)) / (a) × 100

4 温室効果ガスの排出の抑制に係る具体的な取組の実施状況

○ 温室効果ガスの排出抑制に向けた取組み

	項目	削減量等	具体的な取組み
1	プロセス見直し	594原油KL	29年度 エアー供給制御見直し、減圧塔真空ポンプ化、紡浴溶剤濃度見直し
2	原単位向上	2168原油KL	29年度 生産能力増強による原単位向上
3	蒸気使用量削減	822原油KL	29年度 工程安定化による蒸気使用量削減
4	運転条件見直し	618原油KL	29年度 機器調整による蒸気量削減、還流比適正化、インバーター管理値適正化、供給水量適正化
5	燃料の見直し	990原油KL	29年度 バイオマス燃料の混焼

○ 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する取組み（環境価値の活用等）

	種類	合計量
1	特になし	
2		
3		

○ その他の取組み

	項目	数値目標	具体的な取組み
	廃棄物の削減及び再利用		<ul style="list-style-type: none"> 排水の活性汚泥処理による廃油発生量の低減 焼却灰の再資源化検討
	省エネCO2削減		<ul style="list-style-type: none"> エアコン温度管理徹底（夏28℃以上、冬20℃以下） 蒸気ロス（トラップ含む）管理の徹底
	その他		<ul style="list-style-type: none"> 大竹市工場周辺一斉清掃への参加

※ 環境に配慮した実践的な取組みなどをされていれば記入してください。